

業務用米の需要状況について

需要と生産のミスマッチ

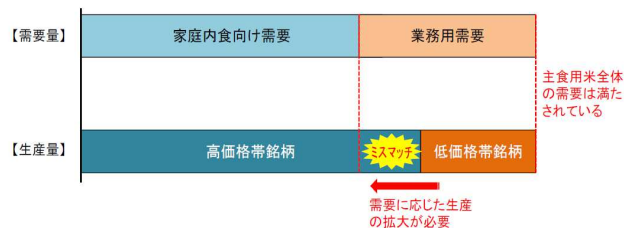
農水省の調査によれば、業務用（中・外食）で消費される精米の割合は平成27年度において31%とされており、その割合は年々増えてきています。28年産主食用米の生産量は全体需要から見ると十分に満たされていると考えられますが、飼料用米など生産調整の取組みが強化されたことや各産地が高価格帯を狙った新品種を作付けしていることなどにより業務用として値ごろ感のある銘柄の作付けが減少し、需要と生産のミスマッチが起きています。

<米の消費における家庭内及び中・外食の占める割合>



※図表：農水省マンスリーレポート平成29年2月号より引用

<28年産米のミスマッチ>



業務用米の生産拡大について

業務用と一口で言っても様々な業態があり、その売り方、炊飯方法、取扱メニューなどによって、求められる品種特性が異なってきます。

また、業務用実需者は、外食企業を中心に比較的低価格銘柄を求める傾向にあり、27年産米では、約8割が税込13,000円/60kg未満の銘柄が使用されています。

本県産米のうち、業務用に販売されている割合は20%となっており、全国平均37%と比べると大きく下回っています。本県産米のシェア拡大をはかるためには、家庭用が主体となっているコシヒカリの適正生産とあわせて、今後も拡大が見込まれる業務用需要を確保していくことが大切です。業務用への対応については、10a当りの所得を確保する考え方で多収穫栽培に取組み、需要者ニーズに対応する銘柄の生産拡大をすすめる必要があります。

<価格帯別販売量（27年産）>

価格帯（60kg当り、税込）	業務用販売量全体に占める割合
15,000円以上	5%
14,000円以上15,000円未満	4%
13,000円以上14,000円未満	13%
12,000円以上13,000円未満	62%
12,000円未満	16%

※図表：農水省マンスリーレポート平成29年2月号より引用

<新潟県産米に占める販売先割合（27年産）>

産地	業務用向け（産地品種銘柄別内訳）			家庭内食向け等
全国	37%			63%
新潟	20%	コシヒカリ	こしいぶき	80%
		14%	5%	
		その他	1%	

（米穀部 東京事務所）

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。